

謹賀新年



新年あけまして
拓めでどうぞございます



輝かしい新年を迎えて

今金町農業協同組合 代表理事組合長



山田島 親守



代表理事組合長
小田島 親守

つつむんで
新春のお慶びを
申し上げます

平成二十七年元旦

新年明けましておめでとうございます。

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。組合員の皆様におかれましては、ご家族お揃いで輝かしい新年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げますとともに、日頃より組合員各位、ご家族の皆様をはじめ、関係機関各位のご指導、ご支援を賜っておりますことに対し衷心より厚く御礼を申し上げます。

昨年の情勢等を振り返りますと、政権交代時から新政権はアベノミクスを掲げ2年経過しましたが、消費増税による影響が長期化し個人消費が伸び悩む等一部企業を除いて景気回復が遅れており、依然として厳しい状況となった年でありました。

また、安倍首相は年末において経済再生を掲げ国民に信を問うため衆院解散に踏み切り、自民党大勝の結果を受けアベノミクスの推進に国民の信任が得られたとして「大胆な規制改革を断行し成長戦略を進めていく」と発言しており混沌とした状況が続くことになりました。

TPP（環太平洋経済連携協定）に関しては、昨年11月10日に中国・北京において年内最終の関係国首脳会合が行われ、結果として目立った成果もなく合意の目標時期も明示されていませんが、安倍首相は「交渉は最終局面にある」とし、協定の早期妥結に向け取り組みを進めていく等を確認しており今後とも断念を許さない情勢にあります。TPPは農業をはじめ医療・雇用等国民生活のさまざまな分野に大きな影響を及ぼしかねないにもかかわらず、依然として具体的な情報開示もありません。特に農畜産物重要品目は日本農業や地域経済社会の発展、安全・安心な国民生活を確保する上で不可欠であり、国会における衆参農林水産委員会決議を踏まえ状況によつては脱退も辞さない覚悟で交渉に臨むよう政府等への働きかけるとともに、国民世論に向けては引き続きJAGグループの一員として交渉参加反対運動を展開して参ります。

また第3の矢として掲げている「成長戦略」におきJAG改革を進めようとしています。規制改革会議は昨年11月12日に「協同組合の見直しに関する意見」を公表し、准組合員の事業利用量規制の導入、全農・経済連の株式会社化、中央会の一般社団法人化の早期実施を提言しました。これらはJAGグループの組織解体につながりかねない極めて問題のある内容であり決して容認できるものではありません。政府は昨年6月の規制改革会議の答申を踏まえ「農協改革は自己改革に委ねる」としており、

JAGグループ北海道として全道の組合員参加による組合員組織討議を開催し、種々の意見・要望をもとに昨年末に「JAGグループ北海道改革プラン」の指針を作成しました。各JAG、各系統段階で今後5年間に渡り自己改革の取り組みを進めるとともに、今後想定される農協法改正に向けた政府・与党の検討に対しJAGグループの一員として組合員の声を代弁して参ります。

さて、本町における昨年の農業は融雪も早く春耕期より天候に恵まれ播種・移植作業とも順調に進み、その後少雨早魃・高温期間も一時ありましたが、各作物とも良好な年となりました。酪農畜産においても肉牛等堅調に推移しており、販売事業総体では概ね事業計画に沿った内容となる見通しであります。

農業政策については、今までの戸別所得補償を見直し、産業政策と地域政策を車の両輪として取り組むとしております。また水田農業については飼料用米等に本作として取り組むことで所得を確保するとし、米の直接支払い交付金も2018年度から廃止する内容となっております。これらの取り組みを進めにあたっては生産現場における取組状況を十分検証しながら生産者が意欲と将来展望を持って経営展開が出来るよう要望するものであります。また、国営緊急農地再編事業では昨年度より南地区が本着工となりました。北地区においても早期に事業採択されるよう行政とともに継続要請して参ります。

本年度は第10次中期経営計画の2年目となりますが、農家組合員個々の顔の見える農協・小回りのきく農協として地域の特性を生かした事業展開により、組合員の経営と生活向上・地域農業の振興を図ることを念頭に組合員の経営安定に努めて参ります。

前述の問題・課題を含め今後においても農業・農協を取り巻く環境は厳しい状況が続きますが、農家経営環境の変化に対応した組合員の今後の営農基盤の維持に向け、27年度営農指導基本方針・中期経営計画の基本方針に基づき健全なJAGであることが組合員の負託に応えるものと信じ、役職員一丸となって事業展開して参りますので、組合員各位のなお一層の事業結果と協力をお願い申し上げます。

結びに、本年も災害がなくご家族が健康で豊穡の出来秋を迎えることが出来ますよう心から御祈念申し上げます。年頭のご挨拶と致します。

専務理事	内ヶ島 道良
常務理事	船木 実
理事	村瀬 廣
理事	細川 信一
理事	岸 泉
理事	黒須 隆之
理事	仁木 明
理事	山崎 仁
理事	境田 哲哉

代表監事	村本 正義
監事	上野 義則
員外監事	加藤 要
管理部長	大場 倫夫
経済部長	長浜 隆之
金融部長	荒川 英也
営農部長	工藤 裕之

光エネルギー―農法 無農薬栽培 報告

今年度より今金町では初めての試みである「光エネルギー―農法無農薬栽培」に今金町の生産者である中野公郎さん・吉本辰也さん・佐々木政徳さんが取り組んでいます。出荷までの取り組みを掲載します。(第2回)

取組④

米ぬかペレット 散布

日時 6月2日(月)

田植え後から長い期間を置かないうちに、米ぬかペレットを散布。有機稲作でよく活用される除草方法です。米ぬかで地面を遮光するとともに、米ぬかが腐敗し、水田を酸素欠乏状態にすることで、雑草を抑える役割があります。



▶米ぬかペレットの散布

取組⑤

専用肥料の追肥

日時 6月27日(金)

光農法専用の有機質肥料を追肥。

取組⑥

手取り除草作業

日時 7月26日(土)

株間に残った雑草が大きくなり、手取り除草を実施。



▲大きくなった雑草の除草

取組⑦

稲刈り

日時 10月1日(水)

慣行栽培と比べて、生育が遅れたものの、無事に収穫を終えることができました。

当日は阪神米穀株式会社より安田副部長、宮原氏が来訪し、稲刈りの様子を見ていただきました。



▶待ちに待った稲刈り!

まとめ

今年度は3戸で約90a、製品反収は約6.5俵と、慣行栽培のゆめぴりかに比べると、反収は落ちるものの、製品歩留としては慣行栽培より優秀な成績を収めることができました。「無添くら寿司」からも高評価をいただきました。

来年度以降も光エネルギー農法無農薬栽培については、積極的に取り組んでいきたいと思えます。



▲阪神米穀安田副部長・宮原氏と記念撮影

平成26年の作物生育状況と次年度に向けて

平成26年は、融雪がやや遅れたが、その後、多照・乾燥状態が続き、春作業は順調に進みました。5月以降も気温は平年を上回り、6月～7月は少雨で、農作業や生育は順調に経過しました。8月～9月は集中豪雨や台風等がありましたが、大きな被害は出ませんでした。

普及センターの作況調査の結果を振り返り、次年度に向けた対策を考えます。

収量は10a当たり、()内は平年値



水 稻

収量要素

m ² 穂数	641 (559) 本	一穂粒数	55.7 (60.8) 粒
精玄米重	592 (534) kg	くず米重	61 (41) kg

生育概況

は種期は4月18日(-1)で、出芽期は4月24日(±0)。一部で高温による出芽不良が発生。5月の好天で、苗の仕上がりは極早かった。移植期は5月24日(+4)。6月上旬の異常高温や強風で植傷みも見られた。活着は並。分けつ始は6月8日(+2)、幼穂形成期は6月29日(+3)。7月の高温で生育量(丈・茎)は大きくなった。出穂始から穂揃までが長引き、出穂揃は8月2日(+1)、出穂・開花は順調であった。8月から多雨傾向で、気温も平年を下回った。9月上旬の降雨で、一部倒伏。9月中旬の気温低下で、成熟期は9月18日(-2)となった。収穫期は9月25日(+2)であった。

穂数は多く(115%)、1穂粒数はやや少(95%)、m²総粒数は多(109%)となった。稔実歩合は並(102%)、m²稔実粒は多(111%)。収量は592kg/10a(111%)となったが屑米も多(147%)かった。千粒重は並(100%)、品質はやや劣り、蛋白は低い傾向となった。

- 次年度に向けて**
- ・融雪促進とほ場の乾燥化促進、透排水性改善に全力を！
 - ・ほ場管理をおろそかにせず、基本技術の励行を！



秋播小麦

収量要素

m ² 穂数	593 (754) 本	一穂粒数	31.6 (32.1) 粒
子実重	628 (578) kg	一等比率	100 (71.3) %

生育概況

25年秋は、天候不順により前作物の収穫作業が遅れたことから、一部ほ場で秋まき小麦のは種作業も遅れた。融雪期は2日遅れたが、降雨が少なかったため、起生期は平年より3日早まった。その後の高温により生育は順調に経過し、幼穂形成期で平年より3日早く、止葉期で4日、出穂期で5日、成熟期も5日早くなった。

収穫作業は平年より7日早く始まり、収穫終は4日早くなった。子実重は平年比120.2%、赤かび病の発生も少なく、品質も良好であった。

- 次年度に向けて**
- ・茎数確保のため、起生期からの適正な施肥を実施する
 - ・「きたほなみ」では子実の充実を図るため、止葉期追肥を行う
 - ・透排水性の良いほ場づくりに取り組む
 - ・適正は種と雪腐病防除の実施に努力する



収量要素

規格内収量〔露地 3,692 (2,822) kg 早出し 2,861 (2,960) kg〕
ライマン価〔露地 14.3 (13.6) % 早出し 15.8 (13.8) %〕

生育概況

〔露地〕降雨が少なく耕起作業が進み、植付作業は 13 日早く始まり 10 日早く終了。植付後は高温で推移し萌芽期は 12 日早く、着蕾期も 12 日、開花期で 9 日、茎葉黄変期で 10 日早まった。病害虫の発生は少なかった。8 月にまとまった降雨があったが、収穫作業は 5 日早く始まった。いも数は平年並、上いも 1 個重は 127.5%、上いも収量は 122.9% と高く規格内収量、デンプン価も高かった。

〔早出し〕好天で、植付作業が進み、萌芽期、着蕾期で平年より 11 日早く、開花期も 8 日早まった。6 月は乾燥傾向で推移し病害虫の発生は少なかった。収穫期は 8 日早まり、上いも 1 個重は平年比 98.2%、上いも収量は 96.9%、でんぷん価は平年比 110.7% となった。

次年度に向けて

- ・有機物施用を計画的に行い、土壌の改善（物理性・化学性）を図る
- ・培土は適正水分で行い、十分な土量と安定した形状を維持する
- ・高温時は、収穫物をほ場に放置せず、貯蔵前に十分キュアリングする



収量要素

着莢数 {さや数}〔大豆 434 (356) 莢 / m² 小豆 388 (473) 莢 / m²〕
子実重〔大豆 279.1 (221.9) kg 小豆 222.7 (233.1) kg〕

生育概況

〔大豆〕好天により、は種は 5 日早く始まり順調に行われた。は種後の少雨で出芽に日数を要したほ場が一部見られた。8 月上旬まで高めの気温で推移したため出芽後の生育は順調で、開花期は平年より 4 日早まり、成熟期は 7 日早まった。着莢数は平年より多く、子実重は平年比 140% となった。生育後半以降に降雨が少なかったため、裂皮、しわ粒の発生が少なく、製品歩留は高かった。

〔小豆〕好天により、は種は 3 日早く始まった。は種前後に降雨が少なかったため、出芽が遅れ、生育のばらついたほ場も一部で見られた。出芽期は 3 日遅れたが、8 月上旬まで高めの気温で推移したため、徐々に回復し開花期で 1 日遅れ、成熟期は平年並となった。着莢数は平年より少なく (82%)、粒大も小さかったため、収量は平年比 96% となった。

次年度に向けて

- ・干ばつや湿害回避のため、心土破碎等を行い、根域の拡大を図る
- ・豆類の連作や交互作を避け、適正な輪作体系を守る



収量要素

根重 7,152 (7,365) kg 茎葉重 3,521 (4,540) kg 根中糖分 17.5 (17.0) %

生育概況

は種は、平年並。移植は平年より 5 日早く始まり、順調に終了。一部で霜 (4/29) の影響があった。移植後の活着は良好で、初期生育も順調であった。8 月以降は多雨傾向であったが、病害の発生は少、根部の肥大も良好であった。収穫は平年より 8 日早く終了。収量は平年比 97%、根中糖分は平年比 103% であった。

次年度に向けて

- ・pH の改善や透排水性の良いほ場づくりを行う
- ・完熟堆肥により地力向上を図る
- ・生育後半の雑草の対策（草取り）を実施する



▲岸幸子部長による開会の挨拶

今金町民センターにて第53回農村女性文化祭が12月3日に開催されました。

JA今金町女性部部長岸幸子さんの開会挨拶が始まり、午前中には「東北・北海道JA女性組織リーダー研修報告」を鈴木幸子さんより、「JA北海道女性協リーダー研修報告」を仁木由喜江さんより報告をいただきました。

昼食時には、津村明美さんの歌、笹森博子さんの踊りが披露され、会場を盛り上げました。



▲新党大地鈴木宗男氏



▲美声を響かせる津村明美さん



▲どじょうすくいを披露する笹森博子さん

午後からは「将来の北海道農業と政治について」という題目で、新党大地代表・鈴木宗男氏より普段聞けない貴重な講演をいただきました。

JAからのお知らせ

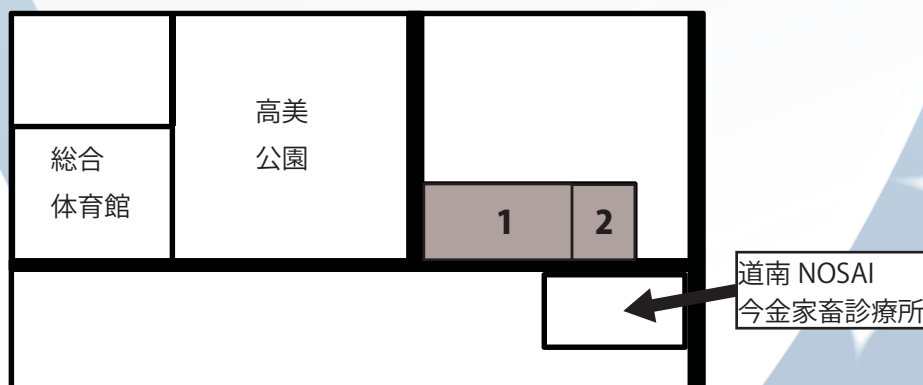
管理課からのお知らせ

資産の売却処分について

右記地図の不稼動地を売却処分いたします。
詳細につきましては管理課までお問い合わせください。

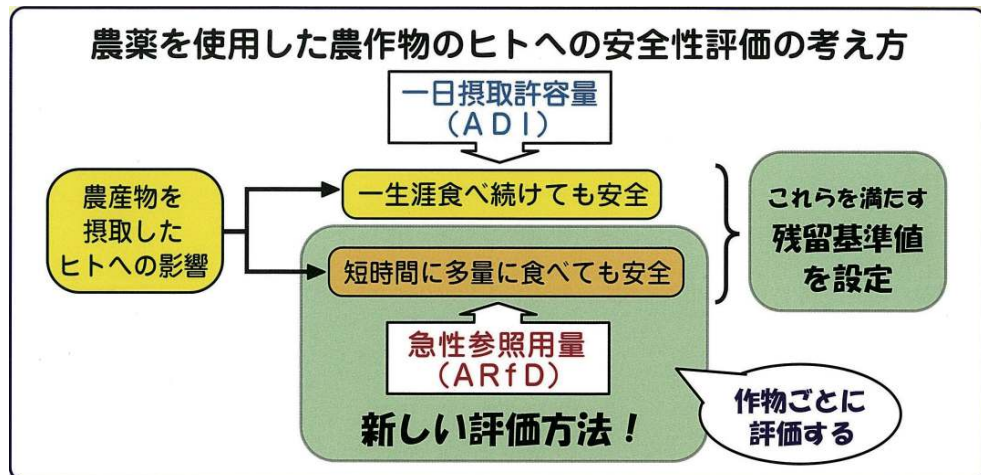
番号	住所	地目	面積 (㎡)
1	字今金 4 3 5 番 6 3	宅地	1490.03
2	字今金 4 3 5 番 9 3	宅地	334.68

問合せ先 TEL 0137-82-0211
JA今金町 管理課まで



農薬を使用した農作物の安全性確保のため 新たな評価方法が導入されます

その農薬を使う様々な農産物を毎日一生食べ続けても健康に悪影響のないこと、さらに、**短時間に多量に食べた場合にも影響のないことも評価・確認し、農薬の残留基準がこれからは決められていきます。**



農薬登録変更の情報を確認し、 変更後の適用内容で 使用してください

- 既に使用されている農薬についても新しい評価の導入により適用内容の変更や残留基準値が変更となり、今までよりも使用方法が厳しくなるものがあります。
- 変更後の使用方法にしたがって使用していただくようお願いします。

JAグループ北海道
農協

全農

ホクレン

高等学校・大学・短大・専門学校生大歓迎 JAグループ職員養成学校

JAカレッジ

- 60名 ●1カ年、全寮制 ●24歳未満
- 大学、短大・専門学校卒(見込)、高校卒(見込)
- 試験日: 2月14日・15日 ●願書受付: 1月9日～2月2日 ●学校見学もできます

男女共学

JAへ就職

お問い合わせ
資料請求

一般財団法人

北海道農業協同組合学校

〒069-0834
(JAカレッジ)

江別市文京台東町43-1
☎ 0120-918-417
JAカレッジ 検索

～トラクターの安全運用のために、安全装備・日常点検と…～ JAの自動車共済

毎年多くの農作業事故が発生しています。

特にトラクターによる事故はその被害が大きく、受傷した人はもとより農家経営全体にも重大な影響を及ぼします。

トラクターの使用にあたっては日常の点検・整備を行い、事故を防ぎましょう。また、どんなに気をつけていても発生してしまうのが事故です。事故に遭ってしまったときのためにJAの自動車共済に加入しましょう。

発生している事故の事例

事例
1

ご家族がトラクターの作業機に巻き込まれてケガをしました。



事例
2

ほじょう
圃場への昇降路で横転、
下敷きになってしまった。



事例
3

農道で追越をかけようとした後続車に追突されてしまった。



おすすめプラン

トラクターの運行中の事故により他人を死傷させてしまったとき、他人の車や物を壊してしまったときの保障、ご契約のトラクターに搭乗中の方（運転者を含む）への保障があり、ご安心いただけます。

共済掛金
(一時払)

新規
23,720円

1年間無事故の場合
継続契約の掛金
16,950円※

10年間無事故の場合
継続契約の掛金
11,360円※

※現在の掛金率で試算した場合。

●契約内容 (一般用自動車共済: 共済期間 12 か月 自動継続割引あり 事故有点数適用期間: 0 年)

等級: 6D 等級

人身傷害保障特約: 5,000 万円

搭乗者傷害特約: 死亡 1,000 万円
傷害別治療共済金倍額払特約

対人賠償: 無制限

対物賠償: 無制限(免責 0 万円)

対物超過修理費用特約

(注) 自動継続特約を付加するなどの所定の条件を満たす場合、共済掛金が約 2% 割引されます。

※上記掛金は平成 26 年 10 月時点の共済掛金です。

※この資料は概要を説明したものです。ご検討にあたっては、「重要事項説明書(契約概要)」を必ずご覧ください。

また、ご契約の際には、「重要事項説明書(注意喚起情報)」および「ご契約のしおり・約款」を必ずご覧ください。

【有効期限: 平成 27 年 3 月 31 日まで】

※複数のトラクターをお持ちの場合は、全てのトラクターにご加入ください。

JA 今金町

金融部 共済課 TEL 82-0211

【14019990116】

JA 広報いまかね 471 号 平成 27 年 1 月 1 日発行

◇発行 今金町農業協同組合 ◇住所 〒049-4397 北海道瀬棚郡今金町字今金 141 番地

◇電話 0137-82-0212(直通) FAX 0137-82-0854 ◇編集 営農部 農業経営課 ◇印刷 今金はやし印刷社